

令和8年第1回宝塚市議会（定例会）において可決された予算の要領を、地方自治法第219条第2項の規定により、次のとおり公表する。

令和8年（2026年）3月31日

宝塚市長 森 臨太郎

#### 可決された予算の要領

- （1）令和8年度宝塚市水道事業会計予算の要領
- （2）令和8年度宝塚市下水道事業会計予算の要領
- （3）令和7年度宝塚市水道事業会計補正予算（第1号）の要領
- （4）令和7年度宝塚市下水道事業会計補正予算（第2号）の要領
- （5）令和8年度宝塚市病院事業会計予算の要領

#### 可決された予算の要領のうち

（1）及び（2）の内容についてのお問合せは、  
宝塚市上下水道局経営管理部経営企画課までお願いします。

TEL：0797-77-2104（直通）

（3）及び（4）の内容についてのお問合せは、  
宝塚市立病院経営統括部までお願いします。

TEL：0797-87-1161（直通）

令和8年度（2026年度）

宝塚市水道事業会計予算

宝塚市上下水道局



## 目 次

1. 予算編成方針	.....	1
2. 業務の予定量	.....	1
3. 予算の規模	.....	1
4. 予算の詳細	.....	2
5. 主要施策	.....	4
6. 管路等の耐震化の状況	.....	6
7. 主な経営数値	.....	7
8. 職員の内訳	.....	8

## 1. 予算編成方針

上下水道局では、現在、令和8年度から令和17年度までを計画期間とする「宝塚市水道ビジョン2035」及び「宝塚市水道事業経営戦略」を策定中です。水需要の減少をはじめ、物価や金利の上昇、先行き不安なエネルギー価格など依然として厳しい状況が続く中、市民生活の安心・安全を守り、誇りをもってライフライン事業としての使命を果たすための取組を行います。

持続可能な水道事業の実施に向け、上下水道耐震化計画において重要施設と位置付けた市内5か所の救急告示病院に繋がる送水管や配水管の耐震化に重点的に取り組む「管路耐震化（更新）事業」を継続的に実施します。また、「配水池加圧所耐震化（更新）事業」として、重要施設の耐震二次診断を優先的に行います。

## 2. 業務の予定量

(1) 年度末給水人口 225,471人

国立社会保障・人口問題研究所の人口推計に基づき令和8年度の推計人口を算出し、それに宝塚市の推計人口と住民基本台帳の人口との差を加味しています。

(人)

	給水人口	増減
令和4年度（決算）	230,437	-
令和5年度（決算）	228,635	△1,802
令和6年度（決算）	227,503	△1,132
令和7年度（予算）	226,738	△765
令和8年度（予算）	225,471	△1,267

(2) 年間有収水量 22,256,605<sup>m</sup>

過去の有収水量を用途別に相関分析することにより、令和8年度の年間有収水量を計上しています。

(<sup>m</sup>)

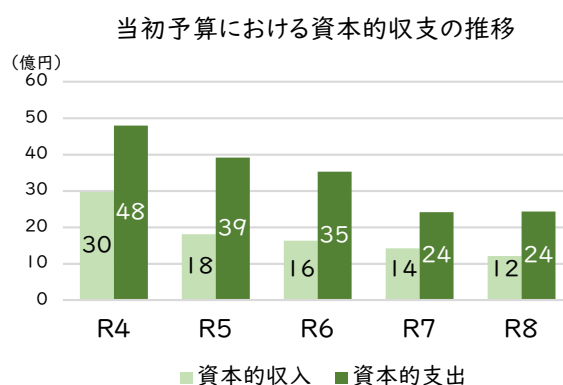
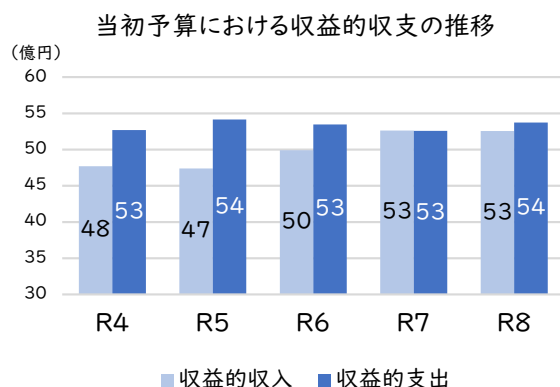
	有収水量	増減
令和4年度（決算）	22,941,541	-
令和5年度（決算）	22,652,213	△289,328
令和6年度（決算）	22,507,108	△145,105
令和7年度（予算）	22,383,260	△123,848
令和8年度（予算）	22,256,605	△126,655

## 3. 予算の規模

令和8年度の支出総額（収益的支出と資本的支出の合計額）は約78億円で、令和7年度の当初予算と比較して約1億円（1.9%）増加しています。

収益的収支については、令和6年度及び令和7年度において、段階的に平均改定率19%の料金改定を実施することにより、収益的収入が増加し、ほぼ収支が均衡するレベルとなりました。しかし、物価や金利などの上昇が続いており、黒字に転じるまでの改善は難しい状況です。

また、資本的収支については、資本的収入が前年度と比べて約2億円減少し、資本的支出は前年度と同水準の予算規模となっています。





## (2) 資本的収入及び支出

(千円)

区分		令和8年度(当初)	令和7年度(当初)	増減	前年比(%)	備考
収 入	1 企業債	750,000	1,083,800	△ 333,800	69.2	
	2 国庫補助金	70,000	123,133	△ 53,133	56.8	※10
	3 他会計負担金	21,000	21,000	0	100.0	
	4 工事負担金	374,000	68,417	305,583	546.6	※11
	5 貸付金返還金	0	130,000	△ 130,000	皆減	※12
	計	1,215,000	1,426,350	△ 211,350	85.2	
支 出	1 建設改良費	1,630,244	1,657,364	△ 27,120	98.4	
	(事務費)	( 101,627)	( 100,965)	( 662)	( 100.7)	
	(原水及び浄水施設費)	( 93,965)	( 53,666)	( 40,299)	( 175.1)	※13
	(送水及び配水施設費)	( 1,378,805)	( 1,433,221)	( △ 54,416)	( 96.2)	※14
	(営業設備費)	( 55,847)	( 69,512)	( △ 13,665)	( 80.3)	※15
	2 企業債償還金	774,738	733,973	40,765	105.6	
	3 予備費	30,000	30,000	0	100.0	
	計	2,434,982	2,421,337	13,645	100.6	
収支差引		△ 1,219,982	△ 994,987	△ 224,995	—	

資本的収支不足額1,219,982千円は損益勘定留保資金等で補填する。

※10 内容は以下のとおりです。

水道施設再編推進事業（配水池統廃合） 10,000千円  
水道総合地震対策事業（送水管耐震化） 60,000千円

※11 内容は以下のとおりです。

㈱太平洋クラブ 宝塚コースへの給水に伴う施設改良分担金 374,000千円

※12 内容は以下のとおりです。

R7年度：下水道事業会計貸付金の返還 130,000千円

※13 主な内容は以下のとおりです。

液体クロマトグラフ質量分析装置 39,600千円（詳細は5ページに記載）

※14 主な内容は以下のとおりです。

管路耐震化（更新）事業 1,170,000千円（詳細は4ページに記載）  
配水池加圧所耐震化（更新）事業 40,000千円（詳細は4ページに記載）  
配水池加圧所機械設備等更新事業 130,500千円（詳細は4ページに記載）

※15 主な内容は以下のとおりです。

水道メーター購入 47,016千円

## 5. 主要施策

### (1) 施設改良・更新に関する取組

- ① 管路耐震化（更新）事業（予算額1,170,000千円）  
 上下水道耐震化計画に基づき、管路の耐震化・更新を行います。  
 また、管路老朽化対策として管路の耐震化・更新を行います。

工事場所	内容
中筋山手5丁目外	ダクタイトル鑄鉄管φ250～φ500布設工事 施工延長 L=365m
平井山荘外	ダクタイトル鑄鉄管φ75～φ150布設工事 施工延長 L=1,288m
境野字塩ノ橋外	ダクタイトル鑄鉄管φ200布設工事 施工延長 L=2,000m
千種1丁目外	ダクタイトル鑄鉄管φ75～φ350布設工事 施工延長 L=430m
市内一円	ダクタイトル鑄鉄管φ75～φ600布設工事 施工延長 L=923m



予算：資本的支出＞建設改良費＞送水及び配水施設費

- ② 配水池加圧所耐震化（更新）事業（予算額40,000千円）  
 更新時期を向かえた配水池・加圧所の更新・耐震化を計画的に行います。

工事場所	内容
山本台3丁目	耐震二次診断調査（配水池）
雲雀丘2丁目	耐震二次診断調査（配水池）
雲雀丘2丁目	耐震二次診断調査（加圧所）
売布ガ丘	耐震二次診断調査（配水池）



予算：資本的支出＞建設改良費＞送水及び配水施設費

- ③ 配水池加圧所機械設備等更新事業（予算額130,500千円）  
 配水池加圧所のポンプ及びバルブ類を更新します。

工事場所	内容
売布ガ丘外	送水ポンプ 米谷下加圧所 ポンプ 3台 ゆずり葉加圧所 ポンプ 2台

予算：資本的支出＞建設改良費＞送水及び配水施設費

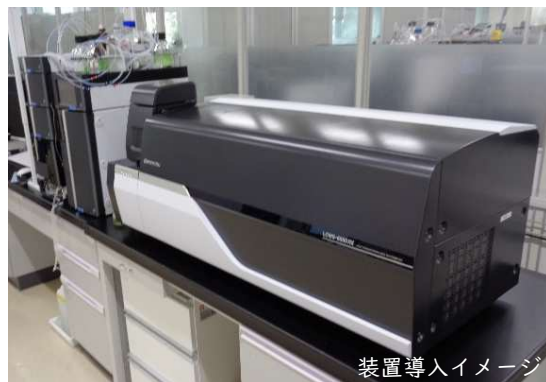


## (2) 安心安全に関する取組

- ①液体クロマトグラフ質量分析装置(予算額39,600千円)  
市民の関心の高い水道水に含まれている有機フッ素化合物(PFOS、PFOAなど)を分析する装置を新たに導入します。

工事場所	内容
水質検査室	液体クロマトグラフ質量分析装置の購入

予算：資本的支出>建設改良費>原水及び浄水施設費



- ②遠方監視装置更新(予算額24,750千円)  
惣川浄水場及び川面浄水場の  
遠方監視装置(テレメータ装置)を更新します。

工事場所	内容
惣川浄水場 川面浄水場	テレメータ装置の更新

予算：資本的支出>建設改良費>原水及び浄水施設費



## 6. 管路等の耐震化の状況

### (1) 基幹管路の耐震化率

従前の指標は、導水管、送水管、配水管（各口径150mm以上）のうち耐震性のある材質と継手（管の接続部）により構成された管路延長の割合です。

新たな指標は、送水管と口径350mm以上の配水管のうち耐震性のある材質と継手（管の接続部）により構成された管路延長の割合です。これは、令和6年能登半島地震において浄水場やその施設に直結した管路などの水道施設（急所施設）が被災し、水道システム全体の機能が停止したことを踏まえ、急所施設のうち耐震化が十分ではない、送水管と給水管の分岐の無い口径350mm以上の配水管を優先的に耐震化するもので、令和8年度から令和17年度を計画期間とする宝塚市水道ビジョン2035において位置付けている指標です。

(従前の指標)

(基幹管路延長 L = 348,544m)

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込)
目標値 (%)	29.4	32.3	35.1	38.0
実績値 (%)	16.9	18.4	18.8	19.8

(新たな指標)

(基幹管路の延長 L = 82,971m)

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込)	令和8年度末 (見込)
目標値 (%)	-	-	-	-	29.2
実績値 (%)	-	27.6	27.6	27.6	29.6

水道ビジョン2035において令和5年度の実績を現状とした。

水道ビジョン2035 中間目標 令和12年度 37.0% 期間最終目標 令和17年度 44.7%

### (2) 重要施設に接続する管路（送水管、配水管）の耐震管率

指標は、用水供給事業者からの水の受水点から救急告示病院の重要施設までの管路のうち耐震性のある材質と継手（管の接続部）により構成された管路延長の割合です。これは、宝塚市上下水道耐震化計画で重要施設に位置付けた救急告示病院に接続する管路を上下水道一体となって優先的に耐震化するもので、令和8年度から令和17年度を計画期間とする宝塚市水道ビジョン2035において位置付けている指標です。

(重要施設に接続する管路の延長 L = 16,248m)

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込)	令和8年度末 (見込)
目標値 (%)	-	-	-	-	42.3
実績値 (%)	-	32.8	32.8	34.4	42.5

水道ビジョン2035において令和5年度の実績を現状とした。

水道ビジョン2035 中間目標 令和12年度 63.4% 期間最終目標 令和17年度 89.1%

## 7. 主な経営数値

### (1) 経常収支比率と料金回収率

経常収支比率は、経常費用が経常収益によってどの程度まかなえているかを示す指標であり、100%未満では経常損失が発生しています。

料金回収率は、給水にかかる費用が、どの程度給水収益で賄えているかを示す指標です。

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込)	令和8年度末 (見込)
経常収支比率 (%)	88.2	92.5	96.9	100.2	98.9
料金回収率 (%)	74.5	81.5	87.3	84.8	77.2
(参考) 減免しなかった場合の料金回収率 (%)	79.6	81.5	87.3	90.9	89.5

### (2) 純利益及び未処分利益剰余金

未処分利益剰余金は毎年度の純利益の累積額です。令和6年4月及び令和7年4月に合計で平均19%の料金改定により令和7年度は当期純利益がプラスとなり、利益剰余金が若干増加しましたが、令和8年度以降再び減少に転じる見通しです。

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込)	令和8年度末 (見込)
当年度純利益 (千円)	△466,861	△173,530	△140,213	11,535	△55,161
未処分利益剰余金 (千円)	370,785	197,255	57,042	68,577	13,416

### (3) 年度末資金残高

下水道事業会計への貸付金については、令和7年度からの返還を見込んでいましたが、下水道事業における流域下水道維持管理費負担金の増額による資金繰り悪化を踏まえ、返還開始時期を令和10年度以降に見直します。

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込)	令和8年度末 (見込)
現金預金残高 (千円)	3,087,797	2,251,725	2,542,790	2,303,425	1,813,249
大口定期等 (千円)	0	100,000	100,000	100,000	100,000
他会計貸付金 (千円)	1,270,000	1,570,000	1,570,000	1,570,000	1,570,000
合計 (千円)	4,357,797	3,921,725	4,212,790	3,973,425	3,483,249

### (4) 企業債残高対給水収益比率

企業債残高対給水収益比率については、明確な目標値や基準が示されているわけではありませんが、令和6年度は全国平均264.86%、類似団体平均300.33%となっており、令和8年度から令和17年度までを計画期間とする経営戦略において改善に取り組みます。

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込)	令和8年度末 (見込)
企業債残高対給水収益比率 (%)	474.6	457.3	444.6	450.4	485.1
(参考) 減免しなかった場合の上記比率 (%)	443.9	457.3	444.6	420.0	418.5

### (5) 供給単価及び給水原価

供給単価は1m<sup>3</sup>あたりの平均収益、給水原価は1m<sup>3</sup>の水道水を作るのに要する費用です。すべての年度で給水原価が供給単価を上回っています。

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込)	令和8年度末 (見込)
供給単価 (円)	141.5	152.0	165.2	167.5	156.1
給水原価 (円)	190.0	186.6	189.2	197.4	202.3
差引 (円)	△48.5	△34.6	△24.0	△29.9	△46.2

なお、料金減免がなかったものとした場合の令和8年度末(見込)の供給単価は、181.0円です。

## 8. 職員の内訳

令和2年度（実績人数）から令和8年度（予算措置人数）までの職員数の推移は以下のとおりです。令和8年度は前年度に比べ3名増員して、80人の予算を計上しています。

（人）

令和2年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	12	34	28	74
	再任用職員	0	8	2	10
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	13	42	30	85
令和3年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	13	38	27	78
	再任用職員	0	3	3	6
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	14	41	30	85
令和4年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	13	38	28	79
	再任用職員	0	3	2	5
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	14	41	30	85
令和5年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	12	36	28	76
	再任用職員	0	3	2	5
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	13	39	30	82
令和6年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	12	37	27	76
	再任用職員	0	2	1	3
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	13	39	28	80
令和7年度 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	12	35	25	72
	再任用職員	0	2	2	4
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	13	37	27	77
令和8年度 予算		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	13	38	24	75
	再任用職員	0	2	2	4
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	14	40	26	80

※ 令和2年度から令和7年度までは実績人数、令和8年度は予算措置人数

※ 別に各年度とも管理者1名あり

令和8年度（2026年度）

宝塚市下水道事業会計予算

宝塚市上下水道局



## 目 次

1. 予算編成方針	.....	1
2. 業務の予定量	.....	1
3. 予算の規模	.....	1
4. 予算の詳細	.....	2
5. 主要施策（雨水事業）	.....	4
6. 主要施策（汚水事業）	.....	5
7. 管路の耐震化の状況	.....	6
8. 主な経営数値	.....	7
9. 職員の内訳	.....	8

## 1. 予算編成方針

上下水道局では、現在、令和8年度から令和17年度までを計画期間とする「宝塚市下水道ビジョン2035」及び「宝塚市下水道事業経営戦略」を策定中です。水需要の減少をはじめ、物価や金利の上昇、先行き不安なエネルギー価格など依然として厳しい状況が続く中、市民生活の安心・安全を守り、誇りをもってライフライン事業としての使命を果たすための取組を行います。

持続可能な下水道事業の実施に向け、雨水事業については、向月町地区の浸水対策事業に取り組みとともに、武庫川ポンプ場の改築を進めます。また汚水事業については、上下水道耐震化計画に基づく耐震診断に着手するとともに、宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づく管路等更新事業に継続的に取り組みます。

## 2. 業務の予定量

(1) 年度末水洗化人口 222,541人

(2) 年間有収水量 22,345,665<sup>m<sup>3</sup></sup>

国立社会保障・人口問題研究所の人口推計に基づき令和8年度の推計人口を算出し、それに宝塚市の推計人口と住民基本台帳の人口との差を加味しています。

過去の有収水量を用途別に相関分析することにより、令和8年度の年間有収水量を計上しています。

(人)

(<sup>m<sup>3</sup></sup>)

	水洗化人口	増減
令和4年度(決算)	226,429	-
令和5年度(決算)	224,790	△1,639
令和6年度(決算)	224,454	△336
令和7年度(予算)	223,125	△1,329
令和8年度(予算)	222,541	△584

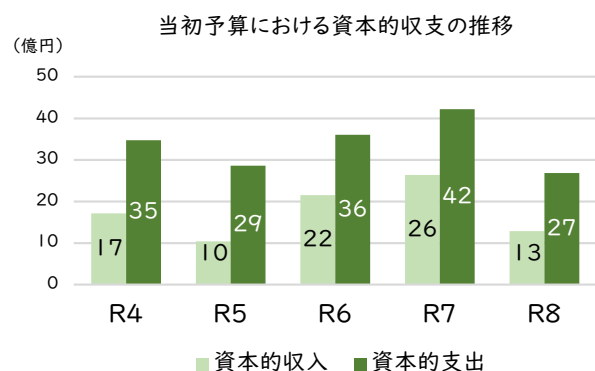
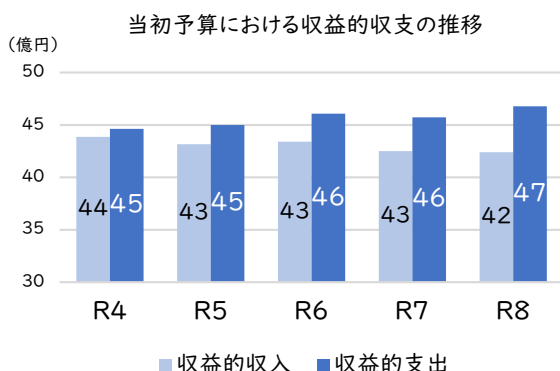
	有収水量	増減
令和4年度(決算)	22,965,897	-
令和5年度(決算)	22,675,126	△290,771
令和6年度(決算)	22,595,383	△79,743
令和7年度(予算)	22,360,265	△235,118
令和8年度(予算)	22,345,665	△14,600

## 3. 予算の規模

令和8年度の支出総額(収益的支出と資本的支出の合計額)は約74億円で、令和7年度の当初予算と比較して約14億円(16.3%)減少しています。

収益的収支については、有収水量の減少などの影響から収益的収入の予算規模が右肩下がりとなる一方で、収益的支出は、物価や金利などの上昇が続いており、令和8年度は約47億円(前年度比2.3%増)を見込んでいます。

資本的収支については、浸水対策及び武庫川ポンプ場改築の計画を見直したことから前年度(令和7年度当初)と比較して、建設改良費が約15億円減少しています。



## 4. 予算の詳細

### (1) 収益的収入及び支出

(千円)

区 分	令和8年度(当初)	令和7年度(当初)	増 減	前年比(%)	備考	
収 入	1 営業収益	3,071,012	3,076,449	△ 5,437	99.8	
	(下水道使用料)	( 2,370,025)	( 2,375,017)	( △ 4,992)	( 99.8)	※1
	(雨水処理負担金)	( 700,372)	( 693,654)	( 6,718)	( 101.0)	
	(他会計負担金)	( 0)	( 7,111)	( △ 7,111)	( 皆減)	※2
	(その他営業収益)	( 615)	( 667)	( △ 52)	( 92.2)	
	2 営業外収益	1,169,628	1,174,610	△ 4,982	99.6	
	(国庫補助金)	( 30,450)	( 28,250)	( 2,200)	( 107.8)	
	(他会計負担金)	( 60,329)	( 52,067)	( 8,262)	( 115.9)	
	(他会計補助金)	( 393,751)	( 392,893)	( 858)	( 100.2)	
	(長期前受金戻入)	( 679,552)	( 696,224)	( △ 16,672)	( 97.6)	
	(その他営業外収益)	( 5,546)	( 5,176)	( 370)	( 107.1)	
	3 特別利益	331	331	0	100.0	
	(固定資産売却益)	( 1)	( 1)	( 0)	( 100.0)	
(過年度損益修正益)	( 330)	( 330)	( 0)	( 100.0)		
計	4,240,971	4,251,390	△ 10,419	99.8		
支 出	1 営業費用	4,296,872	4,216,657	80,215	101.9	
	(人件費)	( 161,483)	( 172,602)	( △ 11,119)	( 93.6)	※3
	(修繕費)	( 259,922)	( 263,400)	( △ 3,478)	( 98.7)	
	(委託料)	( 237,776)	( 194,158)	( 43,618)	( 122.5)	※4
	(負担金)	( 178,137)	( 170,616)	( 7,521)	( 104.4)	
	(流域下水道維持管理費)	( 1,284,161)	( 1,231,704)	( 52,457)	( 104.3)	※5
	(減価償却費)	( 2,115,523)	( 2,124,077)	( △ 8,554)	( 99.6)	
	(その他)	( 59,870)	( 60,100)	( △ 230)	( 99.6)	
	2 営業外費用	371,068	345,823	25,245	107.3	
	(支払利息)	( 231,068)	( 205,823)	( 25,245)	( 112.3)	※6
	(消費税)	( 110,000)	( 110,000)	( 0)	( 100.0)	
	(その他営業外費用)	( 30,000)	( 30,000)	( 0)	( 100.0)	
	3 特別損失	1,501	1,501	0	100.0	
(固定資産売却損)	( 1)	( 1)	( 0)	( 100.0)		
(過年度損益修正損)	( 1,500)	( 1,500)	( 0)	( 100.0)		
4 予備費	10,000	10,000	0	100.0		
計	4,679,441	4,573,981	105,460	102.3		
収 支 差 引	△ 438,470	△ 322,591	△ 115,879	-		

※1 (主な理由) 人口減少及び節水機器の普及等による有収水量減少のため。

※2 (主な理由) 給排水設備課長を水道事業会計からの支出に変更したことで、管理職人件費負担金の計上が不要となったため

※3 (主な理由) 令和7年度の現状を踏まえ、予算上の維持管理と建設改良の配分を変更したため。

※4 (主な理由) 鉄道軌道下横断管路緊急対策による増 14,500千円 (詳細は4ページに記載) 第3期ストックマネジメント計画カメラ調査による増 25,700千円

※5 (主な理由) 武庫川下流流域下水道における委託料の増額などのため。

※6 (主な理由) 利率が上昇しているため。

## (2) 資本的収入及び支出

(千円)

区 分	令和8年度(当初)	令和7年度(当初)	増 減	前年比(%)	備考	
収 入	1 企業債	1,021,110	2,302,650	△ 1,281,540	44.3	※7
	2 国庫補助金	198,450	259,000	△ 60,550	76.6	※8
	3 他会計負担金	65,827	76,302	△ 10,475	86.3	
	4 工事負担金	2,801	2,301	500	121.7	
	5 水洗便所改造資金回収金	570	570	0	100.0	
計	1,288,758	2,640,823	△ 1,352,065	48.8		
支 出	1 建設改良費	1,163,826	2,150,279	△ 986,453	54.1	※9
	(事務費)	( 90,999)	( 63,296)	( 27,703)	( 143.8)	
	(公共下水道整備費)	( 840,090)	( 1,775,747)	( △ 935,657)	( 47.3)	
	(流域下水道整備費)	( 221,060)	( 224,613)	( △ 3,553)	( 98.4)	
	(固定資産購入費)	( 11,677)	( 86,623)	( △ 74,946)	( 13.5)	
	2 企業債償還金	1,510,896	1,930,292	△ 419,396	78.3	※10
	3 他会計長期借入金償還金	0	130,000	△ 130,000	皆減	※11
	4 貸付金	1,080	1,080	0	100.0	
	5 予備費	10,000	10,000	0	100.0	
	計	2,685,802	4,221,651	△ 1,535,849	63.6	
収 支 差 引	△ 1,397,044	△ 1,580,828	183,784	-		

資本的収支不足額1,397,044千円は損益勘定留保資金等で補填する。

※7 主な理由は以下のとおりです。

雨水事業に係る借入額が726,400千円減少したため。

※8 内容は以下のとおりです。

武庫川ポンプ場改築事業に係る補助金61,300千円

汚水管路等更新事業に係る補助金137,150千円

※9 主な内容は以下のとおりです。

浸水対策事業 100,000千円 (詳細は4ページに記載)

武庫川ポンプ場改築事業 142,600千円 (詳細は4ページに記載)

管路等更新事業 579,000千円 (うち521,800千円) (詳細は5ページに記載)

上下水道一体耐震化計画に基づく事業45,000千円 (詳細は5ページに記載)

未水洗化区域施設整備事業 20,000千円 (詳細は5ページに記載)

※10 主な理由は以下のとおりです。

公共下水道企業債償還金の減 115,289千円

資本費平準化債償還金の減 298,690千円

※11 主な理由は以下のとおりです。

策定中の経営戦略では、令和8年度に160,000千円の返済を行う予定としていたが、資金繰りの悪化により償還を見送ることとしたため。

## 5. 主要施策（雨水事業）

### （1）浸水に対する取組

#### ① 浸水対策事業（予算額100,000千円）

近年頻発している局地的大雨にも耐えられるよう、雨水排除能力の強化に取り組めます。

場所	内容
向月町	雨水排水施設の強化 補強管布設工事（φ1350）L=300m

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



#### ② 調整池維持管理事業（予算額7,500千円）

市内34カ所ある調整池について、順次、土砂の堆積などによる機能低下を回復し、防災機能の向上を図ります。

場所	内容
すみれが丘1丁目	土砂浚渫 200m <sup>3</sup>

予算：収益的支出＞営業費用＞委託料



### （2）老朽化に対する取組

#### ① 武庫川ポンプ場改築事業（予算額142,600千円）

昭和50年の運用開始から50年以上が経過し、老朽化が進んでいます。機械設備のダウンサイジングを図りつつ、耐震補強工事に併せて改築を行います。

場所	内容
武庫川町	ポンプ場施設の耐震補強による改築工事

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



#### ② 鉄道軌道下横断管路緊急対策事業（予算額14,500千円）

鉄道陥没事故を未然に防ぐことを目的に、鉄道軌道下横断雨水管路の老朽化対策を行います。

場所	内容
市内一円	鉄道軌道下管路詳細調査業務

予算：収益的支出＞営業費用＞委託料



## 6. 主要施策（汚水事業）

### （1）老朽化に対する取組

#### ① 管路等更新事業（予算額 579,000千円）

宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき、カメラ調査を行い、調査結果を踏まえて改築工事を行います。

場所	内容
中山五月台 外	改築詳細設計 L=4,500m
逆瀬台 外	コンクリート管 改築工事 L = 2,700m
良元地区	ストックマネジメント計画に基づくTV カメラ調査 L = 16,000m



予算：収益的支出＞営業費用＞委託料（57,200千円）  
 予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費（521,800千円）

### （2）耐震化の取組

#### ① 上下水道一体耐震化計画に基づく事業 （予算額 45,000千円）

地震災害時のライフライン確保の観点から策定した、上下水道耐震化計画に基づき、救急告示病院からの排水を受ける管路の耐震化を図ります。

場所	内容
市内一円	耐震診断 L = 4,520m

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



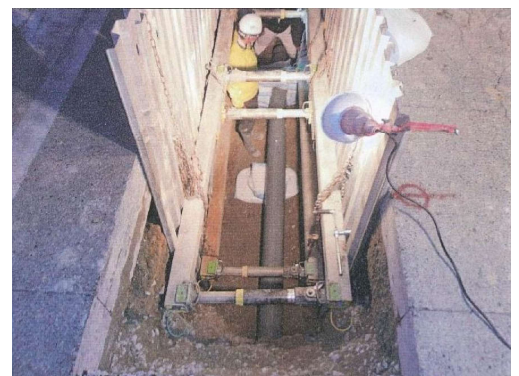
### （3）未水洗化区域解消の取組

#### ① 未水洗化区域施設整備事業（予算額 20,000千円）

公共下水道事業認可区域のすべての市民が下水道の利益を享受できるよう、道路等の整備に合わせて、未水洗化区域の下水道整備に取り組みます。

場所	内容
仁川宮西町 外	汚水管路布設工事（φ250） L = 100m

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



## 7. 管路の耐震化の状況

### (1) 重要施設に接続する污水管路の耐震化率

従前の指標は、損傷した場合に使用者への影響が大きい污水管路、社会的影響が大きい緊急輸送路や軌道の下などに埋設された污水管路の耐震化率であり、令和7年度は中筋污水幹線（延長L=98.7m）の耐震化に取り組みました。宝塚污水幹線については令和6年、7年に工事を分割し、令和6年度分の繰越となった工事（L=598.0m）が完了しましたが、令和7年度分の工事が完成せず、目標値を17ポイント下回る見込みです。令和8年度には実績値として90.0%となる予定であり、残った路線は新たな指標の管路延長と重複しているために今後は新たな指標として耐震化を行います。

新たな指標は、災害時にも救急告示病院の重要施設において、上下水道機能を確保するために、当該施設と流域下水道幹線への合流地点までの管路のうち、地震による損傷を防ぎ、機能喪失のリスクが低くなるよう耐震設計が施された、または耐震性があると評価された管路の割合となっています。

令和8年度及び令和9年度に耐震診断、耐震設計を実施し、耐震化の目標値を具体的に定めますが、令和11年度に耐震化率100%を目指します。

(従前の指標)

(管路延長 L=6,900m)

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込)	令和8年度末 (予算)
目標値 (%)	68.4	79.0	89.5	100	100
実績値 (%)	64.1	71.0	72.5	82.6	90.0

(新たな指標)

(管路延長 L=4,520m)

	令和7年度末 (見込)	令和8年度末 (予算)	令和9年度末	令和10年度末	令和11年度末
目標値 (%)	—	—	—	—	100
実績値 (%)	26.6	31.8	—	—	—

### (2) 管渠改善率 (污水)

従前の指標は、污水管路総延長に対する耐震污水管整備延長と管路改築（更正・布設替）の整備延長の累積割合でしたが、経年とともに全ての管渠が一様に劣化していくわけではなく、点検調査を行いながら劣化が著しい箇所について改築更新を行うことから指標を見直しました。

新たな指標は、污水管渠総延長に対する単年度における改築・修繕の実施割合であり、宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき老朽化と耐震化対策を進めるために、一定維持していく指標として、宝塚市下水道ビジョン2035の10年間の平均で目標値を超えるように管渠改善に取り組みます。

(従前の指標)

(全管路延長 L=530,781m)

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込)
目標値 (%)	22.4	23.3	24.2	26.2
実績値 (%)	21.4	22.6	23.0	23.3

(新たな指標)

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込)	令和8年度末 (予算)
目標値 (%)	—	—	—	—	0.30
実績値 (%)	0.26	0.32	0.28	0.33	0.30

## 8. 主な経営数値

### (1) 経常収支比率及び経費回収率

経常費用が経常収益によってどの程度まかなえているかを示す指標です。全国平均105.4%、類似団体平均106.8%（令和6年度）と比較すると、本市の数値は低くなっており、令和7年度以降は100%を下回る見込みです。

また、経費回収率は、使用料で回収すべき経費をどの程度賄えているかを示す指標です。

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込)	令和8年度末 (見込)
経常収支比率 (%)	102.2	100.8	100.2	94.0	94.2
経費回収率 (%)	80.2	83.4	82.9	74.4	74.5

### (2) 純利益及び未処分利益剰余金

令和7年度に続き、令和8年度予算においても流域下水道維持管理費負担金が高水準で推移する見込みであることから大きく赤字となる見込みです。なお、未処分利益剰余金は毎年度の純利益の累積額です。

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込)	令和8年度末 (見込)
当年度純利益 (千円)	119,829	39,232	16,347	△258,535	△246,767
未処分利益剰余金 (千円)	2,718,769	2,758,001	2,774,348	2,515,813	2,269,046

### (3) 現金預金残高及び借入金残高並びに企業債残高対事業規模比率

営業運転資金に充てるため、水道事業から借入を行っています。令和7年度以降、企業債償還元金の減少に伴い、水道事業からの借入金を少しずつ償還できる見込みでしたが、流域下水道維持管理費負担金の増額に対応するため、償還計画を見直し、資金不足が生じないよう令和10年度以降まで償還を見送る予定としています。

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込)	令和8年度末 (見込)
現金預金残高 (千円)	411,068	647,906	402,282	302,229	13,795
借入金残高 (千円)	1,270,000	1,570,000	1,570,000	1,570,000	1,570,000
企業債残高対事業規模 比率 (%)	581.7	511.0	476.4	485.1	476.2

### (4) 使用料単価及び汚水処理原価

使用料単価は1㎡あたりの平均収益、汚水処理原価は1㎡の汚水を処理するのに要する費用です。すべての年度で汚水処理原価が使用料単価を上回っています。

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込)	令和8年度末 (見込)
使用料単価 (円)	91.8	96.8	96.9	96.6	96.4
汚水処理原価 (円)	114.4	116.1	117.0	129.8	129.4
差引 (円)	△22.6	△19.3	△20.1	△33.2	△33.0

## 9. 職員の内訳

令和2年度（実績人数）から令和8年度（予算措置人数）までの職員数の推移は以下のとおりです。令和8年度は上下水道事業全体の配置見直しにより、下水道事業の職員を増員しています。

(人)

令和2年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	6	13	1	20
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	7	15	1	23
令和3年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	13	1	19
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	15	1	22
令和4年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	14	0	19
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	16	0	22
令和5年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	14	0	19
	再任用職員	1	3	0	4
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	17	0	23
令和6年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	4	15	0	19
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	5	17	0	22
令和7年度 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	15	0	20
	再任用職員	0	2	0	2
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	5	17	0	22
令和8年度 予算		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	16	1	22
	再任用職員	0	2	0	2
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	5	18	1	24

※ 令和2年度から令和7年度までは実績人数、令和8年度は予算措置人数

# 令和7年度宝塚市水道事業会計補正予算（第1号）の要領

## 1 補正予算の内容及び理由

令和7年度及び令和8年度の武庫川下流流域下水道維持管理費負担金の増額により、下水道事業の資金繰りの悪化が見込まれることから、貸付金の返還計画を見直し、資本的収入（貸付金返還金）の既決予定額130,000千円を全額減額補正しようとするものです。

## 2 補正予算の内容

### 資 本 的 収 入

（単位：千円）

款	項	目	既決予定額	補正予定額	計	備 考
1	資本的収入		1,426,350	△130,000	1,296,350	
	5	貸付金返還金	130,000	△130,000	0	
		1 貸付金返還金	130,000	△130,000	0	下水道事業会計からの貸付金返還金

# 令和7年度宝塚市下水道事業会計補正予算（第2号）の要領

## 1 補正予算の内容及び理由

武庫川下流流域下水道維持管理費負担金の緊急修繕等に伴う増額に対応するため、収益的支出のうち営業費用(流域下水道維持管理費負担金)の既決予定額1,231,704千円を95,796千円増額補正するものです。

また、武庫川ポンプ場の改築事業及び向月町地区の浸水対策事業の工期を令和8年度以降に見直すこととしたため、資本的収入のうち企業債の既決予定額2,361,650千円を682,000千円及び国庫補助金の既決予定額259,000千円を133,495千円減額補正するとともに、資本的支出のうち建設改良費(公共下水道整備費)の既決予定額1,838,463千円を796,990千円及び建設改良費(固定資産購入費)の既決予定額136,623千円を18,625千円減額補正するものです。加えて、令和7年度及び令和8年度の武庫川下流流域下水道維持管理費負担金の増額により資金繰りの悪化が見込まれることから、借入金の償還計画を見直し、資本的支出のうち他会計からの長期借入金償還金(借入金返還金)の既決予定額130,000千円を全額減額補正しようとするものです。

## 2 補正予算の内容

### (1) 収益的支出

(単位：千円)

款	項	目	既決予定額	補正予定額	計	備考
1	下水道事業費用		4,574,981	95,796	4,670,777	
	1	営業費用	4,217,657	95,796	4,313,453	
		5 流域下水道維持管理費負担金	1,231,704	95,796	1,327,500	武庫川下流流域下水道に係る負担金

### (2) 資本的収入及び支出

(単位：千円)

款	項	目	既決予定額	補正予定額	計	備考
1	資本的収入		2,699,823	△815,495	1,884,328	
	1	企業債	2,361,650	△682,000	1,679,650	
		1 企業債	2,361,650	△682,000	1,679,650	武庫川ポンプ場 ・改築分 △133,400千円 ・土地購入分△18,600千円 向月町浸水対策 △530,000千円
	2	国庫補助金	259,000	△133,495	125,505	
		1 国庫補助金	259,000	△133,495	125,505	武庫川ポンプ場改築に係る国庫補助金
1	資本的支出		4,280,651	△945,615	3,335,036	
	1	建設改良費	2,209,279	△815,615	1,393,664	
		1 公共下水道整備費	1,838,463	△796,990	1,041,473	武庫川ポンプ場改築に係る委託料 △266,990千円 向月町浸水対策に係る工事請負費 △530,000千円
		4 固定資産購入費	136,623	△18,625	117,998	武庫川ポンプ場改築に係る土地購入費
	3	他会計からの長期借入金償還金	130,000	△130,000	0	
		1 借入金償還金	130,000	△130,000	0	水道事業会計からの借入金償還金

令和  
8年度

宝塚市  
病院事業会計

# 予算

宝塚市立病院

## 目次

1. 令和6年度から3カ年の経緯	・・・	1
2. 令和8年度の経営方針	・・・	2
3. 業務量	・・・	2
4. 予算の詳細（税込）	・・・	3
5. 主要施策	・・・	5
6. 収益的収入及び支出の推移	・・・	6
7. 主な経営数値	・・・	7

## 1. 令和6年度から3カ年の経緯

市と市立病院は令和6年(2024年)3月に経営強化プランを策定し、併せて新病院の整備を決定しました。市立病院は令和8年度(2026年度)の経常収支黒字化を目指して、令和6年度(2024年度)から3カ年に亘る経営目標を定め、実現に向けて取り組んできました。

令和6年度(2024年度)は、東病棟外大規模改修工事に伴い稼働病床数を制限せざるを得ないなか、入院患者1人1日あたりの単価が上昇するとともに患者数も前年度と比べて増加させることができたことから、経常収支は1億7千万円余の損失にとどまり、令和6年度経営目標「赤字体質からの脱却」に沿う結果を得ました。

令和7年度(2025年度)は、急性期充実体制加算2の施設基準を満たしたことに加えて、当院の入院診療の効率性が診療報酬で評価されたことで入院単価が更に向上しましたが、入院患者数は伸び悩み、加えて人件費の上昇と物価の高騰により費用が増加して、経常収支は令和6年度(2024年度)と比べて悪化しています。診療面では待望の手術支援ロボットの導入が市民のご寄附により実現し、外科と泌尿器科で本年1月から手術を開始しています。手術支援ロボットは手術での出血を抑え、手術後の疼痛軽減や早期回復を可能にする医療機器であり、令和8年度(2026年度)には産婦人科と上部消化管外科の領域でも手術を開始します。

令和8年度(2026年度)は、看護師確保の目処が立ったことから現在運営を休止している7階西病棟を早期に再開して入院患者の受け入れ体制を拡大します。さらに、産婦人科医3名を招へいし、周産期医療を除く産婦人科の入院診療を再開するほか、上部消化管の専門医1名を増員して診療内容の充実を図ります。なお、令和8年6月から診療報酬の引き上げ(薬価を除く改定率はプラス2.41%)が実施されるものの、市立病院の収益への影響は未だ明確ではないため、改定率プラス2.41%の上昇をもって予算を編成しました。今後、一段と厳しい経営状況となることも覚悟し、更なる経営改善に取り組む必要性を認識しています。



### 3カ年の経営目標

令和6年度	赤字体質からの脱却	(ファーストステップ)
令和7年度	収支均衡	(セカンドステップ)
令和8年度	持続可能な病院経営	(サードステップ)

## 2. 令和8年度の経営方針

3ヵ年の最終目標「持続可能な病院経営」の実現に向けた経営方針を次のとおり掲げます。

### (1) 全病棟の稼働と効率性の確保

- ・ 令和8年度の早期に全病棟を稼働させます
- ・ 一日平均入院患者数の目標を全病棟稼働後は311人/日(稼働率89%)と定め、DPCⅠ・Ⅱ期間内退院率の目標を71%と定めます
- ・ 急性期充実体制加算2の算定要件を継続して満たします

### (2) 患者さんに選ばれる病院づくり (患者満足度の向上)

- ・ 患者さんご家族から「選んで良かった」と満足いただける病院づくり
- ・ 産婦人科(周産期を除く)の入院治療の再開
- ・ がん診療連携拠点病院に相応しい体制を整備し、活動の活性化を図ります(県指定のがん診療連携拠点病院から国指定へ変更申請中)
- ・ 手術支援ロボットを使用した手術数100件/年
- ・ 病院機能評価の認定(全項目B以上)

### (3) 働きやすい職場の創造 (職員満足度の向上)

- ・ 働き方改革の推進
- ・ ハラスメントのない職場づくり



## 3. 業務量

前年度予算の業務量と比較すると、入院の1日平均患者数は全病棟を稼働させることにより16人増加する一方、外来の1日平均患者数は逆紹介の推進により40人減少します。単価は入院・外来のいずれも増加すると見込んでいます。



#### 4. 予算の詳細（税込）

##### （1）収益的収入及び支出

令和8年度予算のうち収益的収入及び支出は次のとおりです。

（千円）

	区 分	令和8年度	令和7年度	増減額	前年比(%)	備考
収 入	<b>医 業 収 益</b>	<b>14,056,971</b>	<b>12,792,682</b>	<b>1,264,289</b>	<b>109.9</b>	
	（入院収益）	8,801,172	7,727,050	1,074,122	113.9	※1
	（外来収益）	4,538,025	4,351,740	186,285	104.3	※2
	（他会計負担金）	520,766	494,630	26,136	105.3	
	（その他）	197,008	219,262	△22,254	89.9	
	<b>医 業 外 収 益</b>	<b>1,204,183</b>	<b>1,189,151</b>	<b>15,032</b>	<b>101.3</b>	
	（受取利息）	1	1	0	100.0	
	（他会計補助金）	287,199	284,839	2,360	100.8	
	（他会計負担金）	125,427	168,340	△42,913	74.5	
	（国県補助金）	11,970	13,604	△1,634	88.0	
	（長期前受金戻入）	124,444	55,943	68,501	222.4	※3
	（資本費繰入収益）	545,851	552,623	△6,772	98.8	
	（雑収益）	1	1	0	100.0	
	（その他）	109,290	113,800	△4,510	96.0	
<b>特 別 利 益</b>	<b>3,001</b>	<b>3,001</b>	<b>0</b>	<b>100.0</b>		
（固定資産売却益）	1	1	0	100.0		
（過年度損益修正益）	3,000	3,000	0	100.0		
<b>収 入 合 計</b>	<b>15,264,155</b>	<b>13,984,834</b>	<b>1,279,321</b>	<b>109.1</b>		
支 出	<b>医 業 費 用</b>	<b>15,314,562</b>	<b>14,051,373</b>	<b>1,263,189</b>	<b>109.0</b>	
	（給与費）	7,463,368	6,916,831	546,537	107.9	※4
	（材料費）	4,054,949	3,641,945	413,004	111.3	
	（経費）	2,806,665	2,564,895	241,770	109.4	※5
	（減価償却費）	934,483	870,856	63,627	107.3	※6
	（その他）	55,097	56,846	△1,749	96.9	
	<b>医 業 外 費 用</b>	<b>169,473</b>	<b>126,455</b>	<b>43,018</b>	<b>134.0</b>	
	（支払利息等）	79,451	43,186	36,265	184.0	
	（長期前払消費税償却額）	70,021	63,268	6,753	110.7	
	（消費税）	20,000	20,000	0	100.0	
	（雑支出）	1	1	0	100.0	
	<b>特 別 損 失</b>	<b>10,001</b>	<b>10,001</b>	<b>0</b>	<b>100.0</b>	
	（固定資産売却損）	1	1	0	100.0	
	（過年度損益修正損）	10,000	10,000	0	100.0	
<b>予 備 費</b>	<b>30,000</b>	<b>30,000</b>	<b>0</b>	<b>100.0</b>		
<b>支 出 合 計</b>	<b>15,524,036</b>	<b>14,217,829</b>	<b>1,306,207</b>	<b>109.2</b>		
<b>収益的収支差額</b>	<b>△259,881</b>	<b>△232,995</b>	<b>△26,886</b>	<b>-</b>		

(2) 資本的収入及び支出

令和8年度予算のうち資本的収入及び支出は次のとおりです。

(千円)

	区 分	令和8年度	令和7年度	増減額	前年比(%)	備考
収 入	企 業 債	718,100	468,000	250,100	153.4	
	他 会 計 負 担 金	19,608	10,400	9,208	188.5	
	寄 附 金	1	1	0	100.0	
	他 会 計 補 助 金	3,071	0	3,071	皆増	
	<b>収 入 合 計</b>	<b>740,780</b>	<b>478,401</b>	<b>262,379</b>	<b>154.8</b>	
支 出	<b>建設改良費</b>	<b>457,458</b>	<b>540,387</b>	<b>△82,929</b>	<b>84.7</b>	
	(建設改良工事費)	138,493	336,700	△198,207	41.1	※7
	(固定資産購入費)	315,718	197,483	118,235	159.9	※8
	(リース資産購入費)	3,247	6,204	△2,957	52.3	
	企業債償還金	1,106,528	1,046,118	60,410	105.8	
	他会計借入金償還金	70,000	300,000	△230,000	23.3	
	<b>支 出 合 計</b>	<b>1,633,986</b>	<b>1,886,505</b>	<b>△252,519</b>	<b>86.6</b>	
<b>資本的収支差額</b>	<b>△893,206</b>	<b>△1,408,104</b>	<b>514,898</b>	-		

資本的収支不足額893,206千円は損益勘定留保資金等で補填する。

(備考欄の説明)

※1 延患者数111,690人 × 入院単価78,800円 = 8,801,172千円

※2 延患者数201,690人 × 外来単価22,500円 = 4,538,025千円

※3 増加の主な理由  
手術支援ロボットの購入について寄附があったため

※4 職員数(長期休業者を含む)  
令和8年度 医師 88人、看護師 413人、医療技術 123人、事務職員 32人  
令和7年度 医師 83人、看護師 367人、医療技術 123人、事務職員 31人

※5 増加の主な理由  
他病院からの出向職員受け入れ(25人)に要する負担金161,991千円があるため

※6 増加の主な理由  
手術支援ロボットの減価償却が始まるため

※7 建設改良工事費の内訳  
施設改修事業 123,001千円  
看護師宿舎・医師住宅解体設計業務委託 9,350千円  
地歴調査業務委託 6,142千円

※8 固定資産購入費の主な内容  
医療情報システムの導入・更新 155,844千円  
医療機器整備 100,000千円

## 5. 主要施策

令和8年度の主要施策は次のとおりです。

### (1) 施設改修事業 (123,001千円)

築40年以上経過している現病院を新病院開院まで使用するために必要な設備の更新・修繕を行います。本年度は、電話交換設備、医療ガス設備、サーバー室の空調等を更新・修繕します。また、国の脱炭素化事業を活用し、プロムナード等のLED化工事を行います。

資本的支出 > 建設改良費 > 建設改良工事費



LED照明

### (2) 新病院整備事業 (15,492千円)

新病院の建設に向けた準備として、土壌汚染の可能性を調査する地歴調査を実施するとともに、工事期間中の駐車場の確保に向けて医師住宅及び看護師宿舎の解体設計を行います。

資本的支出 > 建設改良費 > 建設改良工事費



看護師宿舎

### (3) 診療科等に関する施策

#### ア 産婦人科

3名の医師を増員し、産婦人科（周産期を除く）の入院治療を再開するとともに、外来治療の充実を図ります。

#### イ 消化器外科

上部消化器外科を専門とする医師を1名増員し、手術支援ロボットを使った手術を開始します。

#### ウ 小児科

医師を1名増員し、入院治療及び外来治療の充実を図ります。

#### エ 入院病棟

看護師を46名増員（令和7年度当初予算との比較、他病院からの出向を除く）し、令和8年度の早期に全病棟を稼働させます。合わせて、現在稼働している病棟の総室の一部を4床化します。



手術支援ロボット

## 6. 収益的収入及び支出の推移

収益的収入及び支出の令和8年度予算（税込）、令和7年度決算見込（税込）、令和6年度決算（税込）の内容は次のとおりです。

（千円）

	区 分	令和8年度 予算（税込）	令和7年度 決算見込（税込）	令和6年度 決算（税込）
収             入	<b>医 業 収 益</b>	<b>14,056,971</b>	<b>12,959,451</b>	<b>12,430,855</b>
	（入院収益）	8,801,172	7,623,298	7,382,011
	（外来収益）	4,538,025	4,652,425	4,340,630
	（他会計負担金）	520,766	494,630	530,193
	（その他）	197,008	189,098	178,021
	<b>医 業 外 収 益</b>	<b>1,204,183</b>	<b>1,279,564</b>	<b>1,151,070</b>
	（受取利息）	1	1,347	558
	（他会計補助金）	287,199	258,083	255,759
	（他会計負担金）	125,427	130,817	139,759
	（国 県 補 助 金）	11,970	239,451	19,351
	（長期前受金戻入）	124,444	55,509	55,945
	（資本費繰入収益）	545,851	463,302	535,387
	（雑収益）	1	0	1
	（その他）	109,290	131,055	144,310
<b>特 別 利 益</b>	<b>3,001</b>	<b>601</b>	<b>23,349</b>	
（固定資産売却益）	1	0	0	
（貸倒引当金戻入）	0	0	260	
（過年度損益修正益）	3,000	601	23,089	
<b>収 入 合 計</b>	<b>15,264,155</b>	<b>14,239,616</b>	<b>13,605,274</b>	
支             出	<b>医 業 費 用</b>	<b>15,314,562</b>	<b>14,446,630</b>	<b>13,628,354</b>
	（給与費）	7,463,368	7,193,752	6,904,011
	（材料費）	4,054,949	3,938,262	3,516,195
	（経費）	2,806,665	2,449,829	2,352,022
	（減価償却費）	934,483	811,602	810,236
	（その他）	55,097	53,185	45,890
	<b>医 業 外 費 用</b>	<b>169,473</b>	<b>117,364</b>	<b>129,640</b>
	（支払利息等）	79,451	43,530	43,791
	（長期前払消費税償却額）	70,021	53,830	65,454
	（消費税）	20,000	20,000	19,162
	（雑支出）	1	4	1,233
	<b>特 別 損 失</b>	<b>10,001</b>	<b>292,053</b>	<b>5,503</b>
	（固定資産売却損）	1	0	0
	（過年度損益修正損）	10,000	292,053	5,503
<b>予 備 費</b>	<b>30,000</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>支 出 合 計</b>	<b>15,524,036</b>	<b>14,856,047</b>	<b>13,763,497</b>	
<b>収益的収支差額</b>	<b>△ 259,881</b>	<b>△ 616,431</b>	<b>△ 158,223</b>	

## 7. 主な経営数値

### (1) 経常収支比率

経常費用が経常収益によってどの程度まかなえているかを示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡、100%未満では損失が発生しています。令和5年度から4年連続で100%を下回る見込みです。

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込み)	令和8年度末 (見込み)
経常収支比率 (%)	104.5	96.9	98.7	97.8	98.6

### (2) 純利益及び未処分利益剰余金

当年度純利益は、令和6年度から3年連続ではマイナス（純損失）となる見込みです。令和7年度が大きくマイナスとなっているのは、令和5年度に交付された一般会計経営支援補助金を精算し、286,397千円返還したことが理由のひとつです。

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込み)	令和8年度末 (見込み)
当年度純利益 (千円)	586,971	385,620	△ 158,329	△ 616,431	△ 229,881
未処分利益剰余金 (千円)	1,320,496	1,706,115	1,547,786	931,355	701,474

### (3) 年度末の一時借入金及び長期借入金残高

各年度末における一時的な借入金（短期的な借入金）と長期的な借入金の残高は次のとおりです。引き続き資金不足の解消及び財政状態の健全化に取り組んでいきます。

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込み)	令和8年度末 (見込み)
一時借入金 (千円)	0	0	0	0	0
長期借入金 (千円)	1,160,000	1,150,000	1,150,000	850,000	780,000

### (4) 企業債借入額、償還額及び残高

企業債とは施設の建設・改修や医療機器の購入等に充てるために国等から借りる資金のことです。令和7年度および令和8年度は経営改善推進事業債の借入がそれぞれ670,000千円、330,000千円あるため、企業債借入額が大きくなっています。

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込み)	令和8年度末 (見込み)
企業債借入額 (千円)	864,500	383,700	549,600	1,802,900	718,100
企業債償還額 (千円)	1,007,236	1,040,247	1,030,250	926,604	1,106,528
企業債残高 (千円)	6,390,138	5,733,591	5,252,941	6,129,237	5,740,809